

令和3年度 社会教育委員 第3回定例会議の概要

1. 日時	令和3年10月8日(金) 14:00~15:00
2. 場所	市役所3階 301会議室
3. 出席者	<p>【社会教育委員】7名出席(宮坂委員、児玉委員、蟹澤委員 欠席)</p> <p>【市職員】島田教育部長、松崎生涯学習課長、高島生涯学習係長、小瀧社会教育指導員、生涯学習課 西澤企画主査</p>
4. 会議内容	<p>【委員会の進行状況】</p> <p>1. 開会(松崎課長)</p> <p>2. ①あいさつ(島田教育部長)</p> <p>「最近の報道から、子ども達をめぐる状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全確保 <p>6月に千葉県八街(やちまた)市で下校中の小学生5人が飲酒運転の大型トラックにはねられ死傷した事故で、起訴された男性の初公判が千葉地裁であり、起訴された男性が起訴内容を認めた。この事故を受けて、文部科学省から7月に全国の教育委員会等に通学路の危険箇所を再点検するよう通知があった。</p> <p>千曲市では、9月16日・9月21日の2日間に、市の関係では建設課・生活安全課・教育総務課、県の関係では千曲建設事務所・千曲警察署、他に学校と、地元区・自治会等の関係機関が集まり、各小学校区の通学路の点検を行い危険箇所を確認する中で<u>速度規制の区間の設置</u>・<u>安全標識の設置</u>など各学校区での対策案をまとめ、県教育委員会に提出した。</p> ・9月30日 八幡地区 競輪の場外車券売り場開業 <p>地域の子どもの安全確保、依存症の問題、景観形成の問題等、地元や市議会で賛否があった。事業者から地域の防犯活動ということで地元と協力体制を組んでいきたいと聞いているが、行政の責務としても地域の交通安全・防犯については万全を尽くしていかなければいけないと考えている。</p> ・2年前 令和元年東日本台風が10月12日に襲来 <p>市役所庁舎前も冠水し、更埴文化会館が浸水被害を受けた。文化会館の復旧工事を行っており、年明けには概ねの工事が完了。来年の4月の開館に向けて文化課の職員が一丸となって準備を進めている。</p> <p>②あいさつ(小林京子委員長)</p> <p>東京オリンピックも終わり、新型コロナウイルスの感染も落ち着き、子ども達のイベントも徐々に行えるようになった。新型コロナウイルスの感染もこれで収束とはいかないと思うので、やれる範囲でいろいろなことをやっていけたら良いと考え、いろいろな知恵を出し合いコロナと向き合っていかなければいけない。私たち社会教育委員として、子どもたちのために何ができるかを話し合っていきたい。</p> <p>3. 会議事項(小林京子委員長:進行)</p> <p>(1) 上半期各課事業報告について(高島係長)</p> <p>資料により上半期4月~9月までの各課事業報告。質問やご意見は一括して受けて、後日書面等にて各課から回答。</p>

(2) 社会教育指導員からの課題提議 (小瀧社会教育指導員)

「最近気になること」～「孤立」を増やさないために～

- ・社会教育 → 学校教育以外の教育で広い視野で教育を考えていくもの。
範囲が広く大変ですが、よろしくお願ひします。
- ・学校では新しい指導要領になり、「主体的・対話的で深い学び」という主旨から授業が行われている。その中で、何を学ぶかではなく、「どのように学ぶか」という主旨で学校教育が行われている。
- ・具体的には、グループで課題を見つけて、グループで話し合い課題を解決していくというやり方で学習を進めるという方法が用いられたが、コロナ禍ということで残念ながら停滞している。
- ・千曲市でも「GIGAスクール構想」1人1台タブレット配布。GIGAスクール構想で気になっていること。
→ GIGAスクール構想の先端を行っていた学校で、6年生女子児童が自殺。原因はチャットで大勢の児童から嫌なことを言われ、また、それが広まるといういじめを受けていた。新しいことを行うときには、みんなで考えないといけないと感じた。
その女子児童の遺書には「孤独が1番嫌だ」と書かれていた。
- ・清國裕二先生のオンライン講演の資料から→『「問題意識」の共有ができれば変わる、刺激が大切』とあったので、社会教育委員としては狭いが、考えてみました。

①児童虐待 「心理的虐待」「身体的虐待」「ネグレクト」→ 子どもたちの命をどうやったら守れるか考えていかなければいけない。

- ・保護者が孤立している現状があるか。(核家族化が進んだ結果として)
- ・児童虐待を防ぐためには、「子どもを見守る」「大人の目を意識的に増やし、子どもの異変に気付く」努力を重ねていかなければならない。
- ・児童養護施設を離れた若者が独立後の生活に苦しんでいる。頼れる人がいなくて不安や孤立感が増す。
- ・施設や里親の努力だけでは限界がある。国や自治体が若者の声に耳を傾ける体制を整え、支えていかなければならない。
- ・児童虐待に触れるなかで、孤立ということがキーワードになる。

②自殺者 年々減少してきていたが、2020年は増えた。

「政府は他人との接点が少なくなって孤独を感じたり、社会的、経済的に孤立したりする人が自殺者増の要因の一つになっているとみて、対策強化に乗り出している。」

③少年犯罪 長野県警の資料から、少年犯罪は減っている。

- ・警察に捕まることはないが、実際はどうか。コロナ禍で家の中にこもる中・高校生が増えているのでは。
- ・青少年補導委員とは…青少年が不良化、非行化することのないように早期発見、注意助言等をするほか、青少年を取り巻く有害環境の浄化に努める。

「街頭補導」 さかり場・寺社の境内・ゲーム場・公園・駅など不良行為がおこなわれやすい場所。

「少年相談」 相談を受けた人から話を聞き回答をしたり、他に相談対応できる所を紹介する。

「環境の浄化」 非行少年のたまり場となりやすいコンビニ、カラオケボックス、ゲームセンター等や、酒・タバコを未成年が購入しやすい場所を巡回し、協力をお願いしている。

「少年非行防止のための地域社会の啓発」11月に実施するが、有害環境の排除等の啓発運動を行う。

・地域の人の協力を得ながら青少年補導を行っている。

④ヤングケアラー

・1日4時間以上家事や介護など家族の世話をしている子ども。

— 中・高生の20人に1人と多い。(厚労省の全国調査)

[例] *障がいや病気のある兄弟の世話や見守り

*家計を支えるために労働をし、障がいや病気のある家族の助け

*アルコール、薬物、ギャンブルなどの問題のある家庭に対応

*ガン、難病、精神疾患など慢性的な病気の家族の看病

*障がいや病気のある家族の身の回りの世話や、入浴・トイレの介助

・このような中・高生は孤立している。孤立させてはいけない。まわりで手助けできないだろうか。

◎ いろんな場面で子ども達が、いろいろな理由で孤立してしまう。地域の住民として、子ども達を少しでも孤立させないためにはどうしたらいいのか、そのようなことを、この社会教育委員会でも一つの視点として考えていきたい。今は子ども達だけではなく、老人にも孤立・孤独(死)ということが浸透してきている。

社会教育委員として、少しでも孤立が無くなる社会を目指したい。

子ども達はもちろん、ほかのみんなが幸せになる社会を希望する。

(3) 今後の事業等について (高島係長)

10月30日(土)午後1時から「地域ぐるみの共有フォーラム」

オンライン Zoom による開催

アトラクション: 小林いせ子副委員長「手袋を買いに」朗読

田島先生(タジマミュージックスクール)のピアノ演奏

(4) その他 (高島係長)

4. その他 (高島係長)

(1) 北信地区社会教育委員連絡協議会 第3回 理事会

令和4年1月28日(金) 於: 北信教育事務所 小林京子委員長出席

(2) 千曲市社会教育委員 第4回 定例会

令和4年2月10日(木) 於: 市役所302会議室 午後2時から(予定)

(小林いせ子副委員長)

令和4年1月30日(日) 於: 蔵し館(稲荷山)

「真冬のおはなしとコンサート」

田島先生(タジマミュージックスクール)、小林いせ子副委員長

【主な協議・意見・要望等】（進行：小林京子委員長）

（○は社会教育委員の質問、▲は事務局からの答弁）

3. 一（1）に関する事

○小林いせ子副委員長

島田教育部長のあいさつの中で、通学路の危険箇所と伺ったが、どこの小学校の通学路が危険箇所が多かったか？

▲島田教育部長

今回、全小学校（9学校区）の通学路を確認した。確認のポイントは、過去10年間の「通学路安全プログラム」というのがあり、各学校の危険箇所は把握しており、今回の八街（やちまた）市のように見通しがよい道路で、スピードを加速するような箇所を点検するよう指示があった。

例えば、前から言われている「上山田小学校」の前が抜け道で自動車がスピードを出しているため、どうしたら良いか、今も対策はあるが更にどうやったら抜け道を防げるかという対策案をまとめて、これから（市道のため）市で何ができるか策定していく。警察の公安が担当する道路標識や、スクールゾーンを午後3時まで延ばすなど、県の機関が判断して策定することもある。

危険箇所が100あったなどの報道もあるが、千曲市では全小学校の校長先生から各小学校の学校区の危険箇所を聞き、重点的に対策を練った。

○山崎委員

コロナ禍の前、地元の公民館で行われた親子工作教室を見学したことがある。その時の講師先生が長野高専の先生だった。親子で楽しそうに工作していた。地元で講師がいれば良いが、なかなか難しい。市では講師等の紹介をしてもらえるか。

▲松崎課長

上山田地区に長野高専の最終学年の生徒がいて、地域の子どもに科学に関する教室を開催してきている。長野高専では先生を派遣していて、使う材料も学校持ちで地域に出向いてもらえる「お出かけ制度みたいなもの」がある。幅広い理系の教室・講座については長野高専に依頼できるのでは。1回きりという訳ではなく何回も依頼できるため、いろいろな分野の先生に依頼するのも一つの方法ではないか。また、やりたいことがあれば生涯学習課に相談してほしい。こちらで見つけれれば、講師の紹介をする。他に、どこかに講師がいるという情報があれば教えてほしい。こちらと一緒に考えたい。

3. 一（2）に関する事

○塚原委員

ヤングケアラーについて気になる。私たち社会教育委員として、どんなことをしたら良いか。小瀧先生から提案や考えを伺いたい。

▲小瀧社会教育指導員

「こんな子どもがいる」ということを情報共有する。個人情報の問題もあるが、まわりで気が付いてあげる。自分で気付いたら広める。できることがあれば、手を差し伸べる。

○塚原委員

ありがとうございました。今日「課題提議」を聴いて「ヤングケアラー」という言葉は聞いていたが、深刻な問題だと改めて感じた。「ヤングケアラー」について広める機会を増やすことも一つの方法だと思う。

▲小林京子委員長

先日、NHKの特別番組で放送されていた。普段の生活の中で「見えない」ため、学校の先生など通学していない生徒の理由が分からない。いろいろな意味での横の繋がり、縦と横の繋がりがうまくいってないと、そういう子ども達のが分かってこない。テレビを見て納得した。知らないことがたくさんあるのだけれど、プライバシーや個人情報などで規制されているため、なかなか分かり難くなっている。そこで、社会教育委員や民生委員さん等といろいろいる中で、情報共有とか話し合いが大事になると感じながらテレビを視ていた。大変なことなのだけれど、そこからが始まりと思う。

○小林いせ子副委員長

今日、児童養護施設に行っていた。この施設は、今、一時保護施設を建設している。虐待を受けた子どもたちを受け入れるため。(市では一時保護の子どもを受け入れる施設が足りない。)児童養護施設に居られる子どもは18歳まで。養護施設を出た子ども達が帰って来た時に、一時滞在できるよう建設中の建物の2階を滞在場所として使用できるようにしている。

この施設にいる子どもはほとんどネグレクト・児童虐待で、親が障がいを持っていたりする。中学3年生になり、子ども自身の進路を決める時に問題になってくる。子ども達を支える体制が必要。情報が世間に落ちてこない。なかなか相談が来ない。「みんなで支えよう」と言っているが、情報の落とし方・流し方・支援の仕方を、具体的に進めていけるような体制であってほしい。と民生委員の会議の時に思っている。何処の市町村でも同じだと思うが。

里親の場合。子どもが小学生になった時に、里親とその子どもに地域・学校の支援がない。(須坂市は支援がある。)里親を探して養護施設から離すようにはしているが、まわりの支援がないと里親になっても苦労している。10月は里親月間。世間は孤立させないことが一番。民生委員も小瀧社会教育指導員の話に絡めて考えていかななくてはならないと思った。

3. 一(4)に関する事

○山崎委員

あんずホールのネーミングライツの審査について、300万円となっているが、300万円未満の応募も可能となっている。審査はどうされているのか。

▲島田教育部長

年間維持費の約10%として300万円としている。「あんずホール」とは更埴文化会館の大ホールの愛称で、今は更埴文化会館を総称して「あんずホール」と呼ばれている。審査はネーミングライツの審査委員が行い、いくつかの条件をクリアした会社・個人をパートナーとして選ぶ。

5. 閉会(松崎課長)